



Miyagi University of Education

## フィリピン中部における台風 30 号被害に関する見上学長緊急メッセージ

猛烈な台風第 30 号（アジア名「ハイエン」；フィリピン名「ヨランダ」）がフィリピン中部を横断し、レイテ島等を中心に、相次ぐ洪水や土砂崩れ等により、多数の死傷者や避難民を出すなどの甚大な被害が生じています。

宮城教育大学を代表し、この度の台風災害によって多数の人命が失われ、多くの人が被災されていることについてお悔やみとお見舞いを申し上げます。また、大学として被災地の復旧・復興にかかる支援を惜しまないことを申し添えます。

現在、本学教育復興支援センターを通じて、被災状況の収集、支援ニーズの確認などを行っており、今後、本学と関わりが深いユネスコや国連大学の地域拠点、東南アジア教育大臣機構（SEAMEO）等のネットワークを通じて支援を具体化していきます。既に、東日本大震災被災地でボランティア活動を展開する本学の学生らを中心に、東日本大震災でご支援いただいたフィリピンの人々への恩返しの意味も込めて、義捐金の募集や情報交換活動も開始しています。

宮城教育大学は、東日本大震災後、教育復興支援センターを設立し、被災地区に通う児童・生徒や学校現場への支援を実施しています。あの災禍からまもなく 3 年、いまだ復興の途上にある我々は、自然の猛威と災害による喪失の痛みや無力さを感じつつも、苦難のなかに希望を見出すべく行動してきました。これまで展開してきた活動の中で、被災した子どもたちにとっての学校は、災害の復興過程において学び合い、友達と会い、励まし合う拠りどころであることを強く認識しております。

災害後の安定的な学習環境の提供は、児童・生徒の将来を守っていくために重要です。フィリピンの被災地においても、今後、INEE (Inter-agency Network for Education in Emergencies) の緊急時の教育ミニマムスタンダードなどに照らしつつ、そのための努力がなされるでしょう。本学としても可能な限り、東日本大震災被災地の教訓も踏まえ、学校再建や被災した子どもたちへの教育の確保にかかる国際的な支援を実施していく所存です。

現在、東日本大震災の経験とそこから得た学びを国際的に共有すべく、アジア太平洋を中心に学校、避難所等の分野で教訓・知見を共有するネットワークの構築に着手しています。こうした矢先に起きた今回の災害に強い衝撃を受けつつも、被災地間協働を通じて、共に手を取り合い、着実に復旧・復興への歩みを進めて行きたいと思えます。

2013 年 11 月 20 日

国立大学法人

宮城教育大学長 見上 一 幸